

～彼女の演奏は見せかけでなく純粹に音楽の真髓にふれます～

ケヴィン・ケナー

# ERI YAMABE Piano Recital

# 山辺絵理 ピアノリサイタル

～リスト心の調べ～

四日市公演

2011 8/12 (金) 18:30 開場  
19:00 開演

四日市文化会館第2ホール

東京公演

8/19 (金) 18:30 開場  
19:00 開演

文京シビック小ホール

フランス・リスト

*Franz Liszt*

ハンガリー狂詩曲 第11番

*Hungarian Rhapsody No. 11*

愛の夢 第3番

*Liebestraume No. 3*

リゴレット・バラフレーズ

*Rigoletto Paraphrase*

メフィスト・ワルツ 第1番

*Mephisto Waltz No. 1*

ラ・カンパネラ

*La Campanella*

ピアノソナタ ロ短調

*Sonata in B minor*

全席自由 ¥2,500

東日本大震災復興支援のために本公演の収益の一部を日本赤十字社に寄付させていただきます。

●主催  
株式会社エムティーズ  
●後援  
社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)  
株式会社FDR・フレンジア  
株式会社クレード

Photo by SATOSHI MINAKAWA

●お問合せ・お申込み  
株式会社エムティーズ  
tel 03-3970-3071  
fax 03-3926-3176  
e-mail [emtysco@aol.com](mailto:emtysco@aol.com)  
イープラス <http://eplus.jp/>

## 山辺 絵理 やまべ えり

14歳で東京にてリサイタルを開催、古典からロマン、近現代と幅広いレパートリーで確実なテクニックと柔軟な音楽性で表現し大成功を収めた。国内はもとより、海外では13歳でアメリカでの演奏会を皮切りにイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スイス、ポーランド、ハンガリー、スペイン、チェコ、オランダ、アラブ首長国連邦にてソロ演奏会及び協奏曲の演奏会に出演。

ポーランド国立放送交響楽団、同国立ボメラニアン交響楽団、同国立クラフ室内管弦楽団、チェコのヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団他、オーケストラとの共演も数多く、その多彩な極めて美しい音色の、感性溢れる演奏は聴衆を魅了して止まない。

2001年よりロンドンに留学。「財団法人ヤマハ音楽振興会」及び「財団法人明治安田生命クオリティオブライフ文化財団」及びヴィオングループ「財団法人岡田文化財団」より海外音楽研修生奨学金を授与される。東京とロンドンの往復で二つの音楽大学に在籍。東京音楽大学「ピアノ演奏家コース」と英国王立音楽大学大学院「アーティストディプロマコース」を共に特待生奨学金を授与され首席で卒業。英国王立音楽大学より「ジョンホブキンソン特別メダル」を授与される。

国際コンクールでは、17歳でポーランドにて「第3回若い音楽家の為のアルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール」で最年少入賞後「第1回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA」にて第1位。スイスにて「第56回ジュネーブ国際音楽コンクール」で最年少ディプロマ賞など受賞歴も数多い。

2010年2月、ロンドンのセント・バーナバス教会で開催された「ショパン生誕200年記念フェスティバル全曲演奏会」に出演した際、急病で欠場した共演の男性ピアニストの演奏曲目も、急遽引き受け完璧な演奏を披露、聴衆をはじめ音楽関係者の注目を浴び大絶賛された。この演奏会の模様は「BBCラジオ3」で放送され同会場で翌月開催された、オールショパンのソロリサイタルは、フェスティバルの演奏を気に入って駆けつけた聴衆を魅了し、大成功を収めた。同年3月、共同通信社特約邦人週刊情報誌の「Update Weekly Japan」に、巻頭インタビュー記事が、見開き2ページにわたり掲載され、一躍話題の人となった。

本年10月にロンドンで開催される「リスト生誕200年記念フェスティバル全曲演奏会」及びソロリサイタルに出演予定。これまでに 田沢恵巳子、杉谷昭子、ハリーナ・チェルニー、ステファンスカ、吉川元子、下田幸二、高橋多佳子、野島稔、菊地麗子、ケヴィン・ケナー各氏に師事。現在東京音楽大学付属音楽教室助手。

### 国際的ピアニスト ケヴィン・ケナー氏のメッセージ

*Eri Yamabe is a pianist to be remembered. Apart from her obvious technical gifts, Eri is a musician in the highest sense of the world. Her interpretations touch on the very essence of the performs, honestly and without affectation. With this level of mastery and creativity, there is no doubt that here is a pianist with a bright and promising future.*

山辺絵理は人々の記憶に残るピアニストです。彼女の明らかに恵まれた技術的才能を別にしても、絵理は最も高度な意味での音楽家です。彼女の演奏は見せかけでなく純粋に音楽の真髄に触れます。このレベルの熟達と創造性を以って、彼女が輝かしい将来を約束されたピアニストであることは疑う余地の無いものです。

Kevin Kenner  
ケヴィン・ケナー